

昭和54年度の地質調査所の研究(2)

企 画 室

Ⅱ 経 常 研 究

地質調査所の経常研究は 地質及び地下資源に関する目的基礎研究を行うものである。実施体制としては“研究グループ制”をとっているが これは地球科学の諸分野にまたがる研究業務を円滑かつ効率的に行い 専門を異にする研究者の共同研究を容易にするためである。

経常研究のうち 「地質図幅の研究」は所内指定研究「実験地学の研究」「地質標本の研究」及び「コンピュータ利用の研究」は所内特別研究とし 予算・人員とも重点的に配分してこれらを強力に推進する。特に「地質図幅の研究」に関しては地震予知の問題に関連し昭和54年度は前年より予算を大幅にふやし 図幅作成の促進化が図られている。

経常研究の遂行にあたっては 研究の意義・目的・目標・年次計画を明確にし 研究成果を速やかに公表して社会への還元を図るようにしている。

昭和54年度から新たに標本管理課が発足することになっており 同課は地質部に所属する予定である。

以下 昭和54年度経常研究の研究方針と研究計画の概要及び研究担当部課を各研究グループごとに紹介する。

1. 地 質 図 幅 の 研 究 (所内指定研究)

地質図幅の研究は 試験研究旅費・地質調査旅費及び工業技術院特別研究「地殻活構造及び岩石破壊機構の研究」旅費によって実施される。

<試験研究旅費による地質図幅の研究>

研究方針：本研究は我が国の地質の把握を目的として地域地質を解明し 国土の開発保全に関する基礎資料を提供する。あわせて我が国の地質学の発展に寄与する。その成果は「5万分の1地質図幅」及び「地域地質研究報告」として印刷公刊する。54年度には特に次の点に留意する。

- 1) 新規図幅は広く所内各部門の参加を目指す とくに若い地質部門研究者が参画するように努める
- 2) プロジェクト研究の性質にもとづき 年長の研究者の生涯計画を考慮しつつ 完了図幅出版に努める

- 3) 図幅における用語に関する統一規準を作成する
- 4) 項目のとり上げ方及び経費の投入を重点的に行う
- 5) 筑波移転に伴う出版業務の一時的停滞があるが 原稿提出を早めるなどの努力を行い 計画通り図幅を出版公表するようにする

研究計画：

- 1) 野外調査完了図幅(7)―十勝池田 浅虫 雫石 粟島(新規) 御岳昇仙峡 竜神(新規) 宇和島
- 2) 野外調査継続調査図幅(1)―長万部(新規) 上ノ国 黒石(新規) 水戸(新規) 寄居 五日市 下梨 八幡師崎(新規) 大朝 上土居 末吉
- 3) 54年度出版予定図幅―江住図幅ほか9図幅

研究担当部課：地質部が中心となり 海洋地質部 環境地質部 地殻熱部 鉱床部 北海道支所 名古屋出張所 中国出張所 北海道大学 岩手大学 東北大学 茨城大学 愛知教育大学 京都大学 和歌山大学 広島大学 愛媛大学 熊本大学が協力する。

<地質調査旅費による地質図幅の研究>

研究方針：地震予知研究の重点地域として指定されている8特定観測地域 すなわち「北海道東部」「秋田県西部・山形県西北部」「宮城県東部・福島県東部」「新潟県南西部・長野県北部」「長野県西部・岐阜県東部」「名古屋・京都・大阪・神戸地区」「島根県東部」及び「伊予灘及び日向灘周辺」において地質調査を行い 地震予知に必要な総合的地質資料を提供する。本研究ではとくに活構造に留意し 成果は試験研究旅費による場合と同様に「5万分の1地質図幅」及び「地域地質研究報告」として印刷公刊する。計画初年度にあたる54年度は 5図幅の研究を行う。

研究計画：

- 1) 野外調査完了図幅(2)―太平山(秋田県西部・山形県西北部) 亀山(名古屋・京都・大阪・神戸地区)
- 2) 野外調査継続図幅(3)―古川(宮城県東部・福島県東部) 三日町(長野県西部・岐阜県東部) 諸塚山(伊予灘及び日向灘周辺)

研究担当部課：地質部が中心になり 環境地質部 北海道支所 大阪出張所 秋田大学 東北大学 大阪市立大学が協力する。

2. 実験地学の研究 (所内特別研究)

研究方針：地殻及びマントル内におこる地質的・地球物理的諸現象の解明に必要な各種基礎データを 実験的手法を中心に求め またこれに関連する諸研究を進めることを基本方針とし 実験岩石学・岩石変形力学及び造岩鉱物物性の3部門を主要な柱として 引続き研究態勢の充実を図る。

研究計画：

- 1) 高温・高圧下における岩石の変形要因の研究
- 2) 深部破壊の構造物理学的研究
- 3) 高温・高圧下における珪酸塩熔融体の構造と元素分配についての実験的研究

研究担当部課：鉱床部 地殻熱部 環境地質部 燃料部 技術部が担当する。

3. 地質標本の研究 (所内特別研究)

研究方針：地質試料標本並びに関連データの国際的・国内的共同利用と有効利用を長期的目標とする。電算機による地質試料標本の情報検索プログラムは昭和49年度に完成した。昭和50年度以降は新規受入試料標本・既登録標本についてデータシートを作成し 索引検索プログラムにより入出力を行ってきた。昭和54年度は引続きコード化ワーキンググループによる作業を拡大し 電算機による標本管理システムのルーチン化を更に推進すると共に 国内外の標本の組織的収集・整備とその研究を引続き行う。地質標本の研究グループの業務は 地質標本の研究グループ・岩石試料整備小委員会・コード化ワーキンググループが推進母体となり 関連部課・支所・出張所の協力を得て行う。また 地質標本情報の EDPS 化を伴う近代化に寄与する。筑波移転に際し標本関連諸業務の構想を新たにし 標本館に展示する標本の計画的収集に努力する。北海道枝幸郡歌登町産デスモステルスについては 復元をめざし研究を推進する。

研究計画：

- 1) 国内鉱石標準標本に関する研究：北海道上国鉱山 (Mn-Pb-Zn 鉱脈型鉱床)
- 2) 展示及び交換用標本の収集：岐阜県下 花崗岩中のペグマタイト晶洞
- 3) 電算機による標本管理システム：標本業務の EDPS 化の

推進

- 4) 標本の整備：標準・一般標本の整備 標本保存処置
- 5) 標本館設立計画：陳列展示計画の推進 資料及び標本の収集
- 6) 岩石試料整備計画：岩石整理・標本の流通・筑波移転の推進
- 7) 北海道歌登町産デスモステルスに関する研究

研究担当部課：地質部を中心に 鉱床部をはじめ各研究部課が協力して実施する。デスモステルスに関しては北海道支所が東京大学と協力して研究を進める。

4. コンピュータ利用の研究 (所内特別研究)

研究方針：コンピュータ導入以来 科学技術計算・情報処理等の面で有効利用を続けてきたが 更に質・量の両面において その向上と新しい研究分野の開発を図る。

研究計画：昭和53年度に引続き電算機利用技術の向上に努めるが 特に筑波移転後に予想される筑波大型電算センター (通称 RIPS) の発足に伴う利用技術面での検討を積極的に進めてゆく。また 近年その必要が説かれている地下情報インベントリ(データベースを含む)についてもソフト・ハードの両面からの予察的研究を行ってゆく。

研究担当部課：物理探査部 海洋地質部 技術部 燃料部などが担当する。

5. 地質の研究

研究方針：地質調査所として 現在及び将来ともにならぶべき地質学的要求に対応できる力量を保持・発展させるために 地域地質の詳細かつ総合的な研究による地史・古地理などの復元 地質現象の基礎的理論の発展を目指した研究 調査研究手段の開発を目指した研究を行う。また 日本列島及びその周辺の地質・地史の総合的な把握をめざし 多くの研究者を結集したテーマを設定して研究を行う。研究の推進に当っては目標の明示・中間段階での発表及び成果のとりまとめに留意する。

研究計画：

- 1) 地層の形成過程の解明を中心課題とする研究
- 2) 層序・構造の確立 地史・古地理の復元など地域的な地質の解明を中心とする研究
- 3) 火山の成長史並びに火山岩の岩石学的検討を中心とする研究
- 4) 日本の火成岩の岩石学的な検討を中心とする研究
- 5) 主に EPMA による火成岩・変成岩の造岩鉱物の形成過

- 程・晶出機構を解明する研究
- 6) 微化石による二畳・三畳系の生層序の確立を目的とした研究
 - 7) 本州地相斜の終末と内側モラッセ盆地の形成との関連についての造構的・堆積学的研究

研究担当部課：地質部が担当し 環境地質部地震物性課と海洋地質部海洋地質課が一部協力する。

6. 地質編さんの研究

研究方針：地質編さんの研究は 日本の地質についての総括的研究 特に地史学的研究及び地体構造論的研究を基礎として 日本の地質を系統的に 全体的あるいは地域的に把握し 総合することを目的としている。具体的には これまで行ってきた 500 万分の 1 200 万分の 1 50 万分の 1 20 万分の 1 などの地質図の編さん・改訂及び特殊地質図などの編さん・作成を進める。特に 地質学の研究の進歩・データの蓄積に対応して既刊出版物 (An Outline of the Geology of Japan など) の恒常的な改訂が必要である。更に 世界地質図委員会関係などの国際的なプロジェクトに協力する。また以上の目的のために資料収集と整理を行う。

54年度においては 20万分の1及び50万分の1地質図幅の作成を行い また100万分の1日本地質図及び Geology and Mineral Resources of Japan, vol. 1 (Geology) の出版を機会に 200万分の1及び500万分の1日本地質図の改訂作業を進める。

研究計画：

- 1) 20万分の1地質図幅「室蘭」・「千葉」・「名古屋」及び「大社」の作成
- 2) 50万分の1地質図幅「網走」の作成
- 3) 200万分の1 500万分の1日本地質図の改訂
- 4) 地質編さん資料収集・整理

研究担当部課：地質部が中心となり 環境地質部北海道支所 名古屋出張所が協力する。

7. 海洋地質の研究

研究方針：日本周辺海域全般の地質概要を把握するとともに 海底特有の地質的諸現象を解明するための基礎的研究を実施する。このため 多数の諸問題中特に将来の研究の進展が予想されるもの及び大きな波及効果が期待される課題について 地質学的・岩石学的・地形学的並びに探査技術的観点からの基礎的研究を行う。これに関連して内外の海底地質情報を収集し 海上研究で得た試資料の処理管理体制を強化するとともに 海外

との情報交換を活発化する。調査研究業務遂行に際しては 所内外の関連部門・機関との積極的な協力をを行う。更に 海上調査研究の遂行を円滑ならしめ調査技術の向上を図るために 白嶺丸塔載機器の検取・改良修理工事監督業務を実施する。

研究計画：

- 1) 海底地質層序構造に関する基礎的研究
- 2) 海底火山に伴う堆積物の研究
- 3) 海底段丘に関する基礎的研究
- 4) 大陸斜面地質構造解析の基礎的研究

以上の研究に付随するものとして 情報収集処理管理を実施する。海洋地質部全体の業務に係わるものとして 白嶺丸塔載機器検取監督業務を行う。

研究担当部課：海洋地質部海洋地質課が担当する。

8. 海洋鉱物資源の研究

研究方針：深海底鉱物資源及び日本周辺海域の諸海底鉱物資源の探査に関する基礎を確立することを目標とし 関連陸域を含めて基礎的研究を行い 諸海洋鉱物資源の探査・利用に対する社会的要請にいつでも応ずることができるように 基礎的研究データを蓄積する。

研究計画：

- 1) 深海底鉄マンガン鉱床に関する基礎的研究—珪質堆積物とマイクロジュールの研究を行い マイクロジュールの成因及びその意義を解明する
- 2) 海底骨材資源に関する研究—品位変化についての資料収集 (瀬戸内海倉敷沖) 海底砂利形成機構 (大井川河口)
- 3) 重金属・有機物元素の挙動に関する研究—沿岸海域における 重金属元素と有機物の除去並びに底質への濃集機構・堆積機構を明らかにする目的で 安芸灘を対象として研究を行う

研究担当部課：海洋地質部海洋鉱物資源課が担当。

9. 海洋物理探査の研究

研究方針：海洋地質を物理探査 (地球物理学的手法) により調査研究すること 及びその調査・測定・処理技術を開発し適用することを目的とする。項目1の音波探査に関してはデジタル化の方向を主として着実に進めて行く。項目2の海洋地球物理データの処理・解析技術の研究は 新規に3年の計画で解析技術を中心に進めるものである。またマイクロ電算機を各種海洋地質の

データ取得と処理に適用することは 全項目に共通はするが 基礎問題や資料収集はこの項目で行う。

那谷地域水理地質図の作成 西多摩・比企・入間及び町田・南多摩両地区の水文地質構造の総括を行う

研究計画：

- 1) 音波探査技術の研究—A/D 変換方式による数値化処理の電算機利用に用いるプログラムの体系をまとめ 浅海域における底質・海底浅部の微細構造調査及び解析の手法を探る
- 2) 海洋地球物理データの処理・解析技術の研究—前年度までに船上情報処理の方式が確立されたので その処理されたデータの解析技術の研究を行う 紋別沖及び近接陸域の重力・磁気・音波探査データの総合解析を行い その解析プログラムの開発を進める また マイクロコンピュータを船上で用い 機器制御やデータ収録を行う方式の開発を行う
- 3) 海底近傍の物理探査の研究—深海底における 3.5KHz 送受波器の改良についてのテスト 深海用プロトンを用いてのデータ収集を行う 深海堆積物の浅留磁気測定については 消磁法の改良と測定迅速化のための基礎的研究を行う

研究担当部課：海洋地質部海洋物理探査課が担当。

10. 水資源の研究

研究方針：地下水を地球における水の循環系の一段階としてその分布や挙動をとらえ 特に自然の経年変化及び人為作用による変化の両側面から考察を進めて広く各方面の問題に対処するための基礎資料とする。岩盤地帯のいわゆる裂か水と呼ばれて来た地下水に関する分野には未解決のことが多く しかも地下水資源として再評価される機会も多いことから 地域開発及び環境保全問題に直結しながらも その動態のはっきりしない裂か水の解明に力を注ぐこととする。

研究計画：

- 1) 岩盤の水文地質に関する研究—北部北上山地 大隅半島南部及び沖永良部島において 岩盤地帯の裂か地下水を対象とし 地質構造に規制された地下水の挙動・収支形態などを明らかにする
- 2) 地下水の塩水化に関する研究—地下水の塩水化に関する施策を確立する資料として 今まで実施して来た研究を総括する
- 3) 帯水層の解析技術の研究—揚水可能量をよりの確に把握するため 各種の検層法を駆使し 精度を高めた水井戸解析技術を開発する
- 4) 地下水情報の収集・編集—地下水位・水質の通年観測 伊

研究担当部課：環境地質部水資源課が担当し 同部地震化学課が一部協力する。

11. 環境地質の研究

研究方針：地質現象の環境科学的評価に関する基礎的研究を行う。すなわち環境基盤としての地質現象のうち 普遍かつ永続的なものに 侵食・堆積・火山活動及び地盤の構造等が挙げられるが 主としてそれらを対象として 人間生活の安全に係わる環境評価と事前予測のための研究を進める。

研究計画：

- 1) 氾濫原地域における沖積層地盤に関する研究—沖積層地盤の構造・性状を明らかにし 沖・洪積地盤地質図表現法の事例研究の一環として 埼玉県東部 加須・久喜周辺の氾濫原地域を対象とする研究を行う
- 2) 沖積低地帯における軟弱層に関する研究—古利根低地帯の一部を対象として 主としてサウンディングによって軟弱層を追跡し その分布と地盤沈下状況や過去の地震時における被害状況などの関係を明らかにする
- 3) 秩父帯における斜面崩壊地帯の地質に関する研究—秩父帯山地における斜面崩壊の地質的要因を明らかにするため 高知市周辺に多発した崩壊地帯を対象として研究を行う
- 4) 火山災害に関する降下火山灰の地質学的研究—活火山における災害要因の1つである降下火山灰の分布・層厚などの詳細な調査研究を行う

研究担当部課：環境地質部環境地質課が中心となり 同部地震物性課が協力する。

12. 地震地質の研究

研究方針：地質構造 特に第四紀後期の構造運動と地震活動との関係を地形・地質学的に追求することを研究の主力とする。特に 当面社会的要請の大きい地震予知に関する各種プロジェクト研究を支え 更に進展させるため 当グループの研究課題・対象地域の選定に際しては 特別研究等との連繋を図ることに意を用いる。研究の遂行にあたっては 所内外の関連分野・部門との協力・交流をはかり 境界領域の開拓を目指す。なお53年度で終了したテーマが多いので今年度内にその成果を公表することに努める。

研究計画：

- 1) 活断層及び地震断層の地形・地質学的研究—活断層の活動

度から地震の位置・規模・頻度を定量的に推定する手法を開発するために 代表的活断層及び地震断層について 地形学を含む第四紀学的方法並びに断層及び周辺の変形・破碎度に着目した地質学的方法による精査を行う

- 2) 第四紀後期の地殻変動に関する調査研究—相模・関東の両構造盆地において 段丘の波状変形や傾動についての基礎的研究を行う
- 3) 微小地殻変動計測のための基礎的研究—現在は活断層周辺に設置された基線網の観測は 精密角観測方式から距離測定方式への過渡期にあるため 両方式を比較検討し 新しい手法を精度よくかつ能率的に実施するための研究が必要である 当面 新方式による観測法並びにデータの整理・表示法の確立に必要な室内研究を行う

研究担当部課：環境地質部地震地質課が担当する。

13. 地震物性の研究

研究方針：地震予知などの特別研究の基盤として またそれらと関連しつつ 地殻及び上部マントルにおける各種構造運動 特に地震活動の実体把握とその基本的理解のための基礎研究を行う。

研究計画：

- 1) 震源破壊機構の研究—地震源における破壊のプロセスと機構を実験的・理論的に解明する 特に微小破壊の発生機構を調べ 地震の前兆現象を明らかにする
- 2) 活構造地域における微小破壊の研究—活構造地域における微小破壊（地震）の発生状況を野外において観測し 更に採取した岩石試料の室内における関係を研究する
- 3) 破碎帯構成物質による断層破碎帯の研究—阿寺断層系の断層破碎帯とその周辺の観察と破碎帯を構成する物質の解析を行う
- 4) 爆発地震時に関する基礎的研究—人工爆発及びその地震動の観測に関する従来のデータを収集解析して技術的基礎情報を抽出し 観測実験に関する実地に有用な指針を得るための研究を行う

研究担当部課：環境地質部地震物性課が担当し 同部地震地質課が一部協力する。

14. 地震化学の研究

研究方針：地震予知に関する研究の一環として 観測指定地域等における地下水及び地下ガス等に関し水理地質・地球化学的研究等を行い 予知に関する基礎資料を提供する。業務の遂行に当たっては特別研究等との連携を図ることに意を用いる。

研究計画：

- 1) 地震予知に関する地下水位・水質の研究—観測強化地域に指定されている南関東の千葉県下の既存井を対象とし 水位・水質・ガス等の研究を行い 観測システムに関する基礎資料を得る
- 2) 地下ガスの化学成分に関する研究—地震断層・活断層地域を対象とし 土壌ガス中の化学成分及びその経時変化に関する研究を行い 断層の活動度との関係を把握する
- 3) 平野部潜在活断層の地化学的探査手法の研究—既知・推定断層地域を対象とし 地下ガスに関する地化学的調査研究を行い 断層探査の可能性を検討する

研究担当部課：環境地質部地震化学課が中心となり 同部水資源課 技術部化学課及び試錐課が協力する。

15. 地殻熱資源の研究

研究方針：地殻熱資源の評価技術の進歩を目指して 資料総合 分布及び生成機構の研究を行う。方法論的には地質学的及び地球化学的方法によって研究する。筑波においては専用スペースが出来るので その内容整備に努力し 特に地熱ポーリングコアに関連して深部地質実験棟に積極的に協力するものとする。

研究計画：

- 1) 地殻熱資源資料収集総合—鮮新世後期—現世噴気性変質帯一覧 新第三紀変質・変成帯分布図及び地熱水水質分布図を作成する
- 2) 地殻熱資源分布の研究—伊豆半島南部の地熱資源分布と地質構造との関係を研究する また 伊豆半島の中新世後期—鮮新世初期の酸性貫入岩体中のジルコン・アパタイト・ガラスのフィッシュオントラック年代測定を行い その岩体の冷却速度を求める
- 3) 地質学的温度測定の研究—地熱地帯の泥質堆積岩の古地温測定に炭質物の反射率を利用する方法及び火山岩の造岩鉱物（長石・輝石・鉄鉱物等）と全岩分析値からマグマ溜りのPT 条件を推定する方法についての研究を行う 更に酸性貫入岩体及びその周辺岩石の古地温測定によりマグマ系・高温岩体系・熱水循環系の相互関係を明らかにする
- 4) 地熱温泉水理に関する研究—水の水素同位体組成を用いる 函養地域の推定 トリチウム濃度による側方流動の推定 土壌中の CO₂ 及び Hg による地下深部高温帯の推定等を組合せて地熱水理を研究する

研究担当部課：地殻熱部地殻熱資源課が担当し 一部については同部地殻熱物性課と技術部化学課が協力。

16. 地殻熱探査の研究

研究方針：地殻探査法及びそれに必要な基礎的研究を行う。すなわち地殻探査法の研究、地熱貯溜層に関する研究及び地殻熱構造に関する研究である。

研究計画：

- 1) 地熱評価のための地質遠隔探知の研究—地熱資源の賦存状態を評価するために各種リモートセンシング技術手段を用いてアプローチをはかる
- 2) 変動磁場による電気伝導度分布不均一性の研究—変動磁場観測により熱水系による電気伝導度異常の検出可能性を理論・測定技術の両面から研究する。理論面では変動磁場データの処理及びモデル構造の理論計算のための基礎プログラムの充実を前年度に引き続いて行う
- 3) 地熱地における熱水流動の研究—北海道濁川温泉地域を実験地として地熱開発が周辺地熱地域に与える影響を把握することによりその地熱地域の熱水流動の形態を明らかにする
- 4) 地殻熱構造の研究—日本各地の坑井温泉データのコンパイルを行うとともに岩芯の熱伝導率測定を行い熱流量の広域分布を求める。また磁気・重力等の地球物理学的データと熱流量との関係を定量的に検討して深部熱構造のモデル化に着手する

研究担当部課：地殻熱部地殻熱探査課が中心となり同部地殻熱資源課と物理探査部技術開発課が協力する。

17. 地殻熱物性の研究

研究方針：地熱環境下における岩石・鉱物・地熱流体の化学的性質及び固体・流体の相互反応に関する研究、地熱環境下における岩石・鉱物の物理的性質に関する研究並びに地熱開発に伴う地下環境保全に関する研究を取り上げる。これらの研究を通じて地殻熱資源の合理的開発利用を行うに資することをねらうものである。

研究計画：

- 1) 地熱地帯における岩石-水反応の研究—変質帯は岩石と水の反応により形成されるがその条件を固体・液体双方の研究から明らかにし地熱資源の探査・評価に役立てるため野外及び室内における変質の研究及びサーモルミネセンス(TL)法による変質帯形成年代の研究を行う
- 2) 流体を含んだ岩石の物性の研究—室内実験用の装置がほぼ完成したので測定例の増大をはかると共に更に実験室内で得られた結果を野外に応用することを試みる
- 3) 地熱地の地下環境の保全に関する基礎研究—重力モニタリングによる地熱地域の地下水系及び熱水系の変動の検出に関する基礎的研究を行う

研究担当部課：地殻熱部地殻熱物性課が中心となり同部地殻熱資源課が協力する。

18. 鉱物資源の研究

研究方針：鉱床生成区に関する基礎的応用的研究を行いこれを基礎に将来の国内外における鉱物資源の賦存予測及び供給可能予測を行い更に資源の完全利用をはかるための基礎資料の提供を目的とし併せて鉱物資源に関する国際協力を行うことを基本方針としている。このため鉱物資源に関する国内外の諸資料を収集・整理しそれらの総合的解析を行い広域的並びに地域的な分布及び生成・配列の特性・規則性について定量的あるいは定性的に基礎・応用両面からの研究を行う。

研究計画：

- 1) 鉱床生成区並びに鉱床予測に関する研究
 - (1) 鉱床予測に関する基礎的研究
- 2) 鉱床分布図基礎資料収集
 - (1) 雑非金属鉱物鉱床分布図
 - (2) 鉄・クロム・ニッケル・コパルト・チタン・そう鉛鉱床分布図
- 3) 50万分の1鉱床図作成
 - (1) 網走・釧路
 - (2) 金沢
 - (3) 札幌・旭川・秋田・東京(何れも補完作業)
- 4) ESCAP 関係資料収集

研究担当部課：鉱床部鉱物資源課が中心となり同部鉱床研究課 技術部化学課 北海道支所 名古屋出張所が協力する。

19. 鉱床探査の研究

研究方針：日本における鉱物資源の賦存状態に関する実態の把握ポテンシャルの評価につとめるとともに鉱物資源の賦存予測及び探査理論の確立を図ることを基本方針とする。このため各種鉱物資源の特性把握を目的とする野外研究を行うとともに既存資料についての解析を行う。

研究計画：

- 1) 重金属元素の賦存状態に関する地球化学的研究
 - (1) タングステン鉱床を伴う花崗岩類の研究
- 2) 金属鉱床の地質構造解析に関する研究
 - (1) 本邦の堆積型ウラン鉱床の研究
 - (2) 北海道西部地域白亜紀末—古第三紀初期の鉱化作用に関

する研究

- (3) 大江鉱山の銅・鉛・亜鉛・マンガン複成脈鉱床の成因に関する研究
- (4) 中国地方の熱水性タングステン鉱床の研究
- (5) 邑智花崗岩複合岩体に伴う熱水鉱床の研究
- (6) 海成堆積物中の重鉱物の濃集・積成機構の研究

3) 非金属鉱床の地質構造解析に関する研究

- (1) 兵庫県下のろう石鉱床の研究
- (2) 珪藻土鉱床に関する研究

4) 鉱床探査の応用研究

- (1) 放射ラジオグラフィによる金属鉱石の研究

5) 鉱床の産状と規模に関する総括研究

- (1) 鉱床情報の解析・処理手法に関する研究

研究担当部課：鉱床部探査研究課が中心となり 技術部化学課 北海道支所 中国出張所が協力する。

20. 鉱床の研究

研究方針：鉱床構成元素の地球化学 各種鉱床の生成環境 生成過程など鉱床の成因解明に関する基礎的研究を行う。研究の推進に当たっては常に汎地球的視野からの検討に留意し 研究途上で発生する副次的テーマについても 重要度に応じ適宜追求する。53年度を以て3研究は終了し 54年度から新規に2研究を発足させる。そのうちの1)には鉱床生成に関するすので集中的な研究を実施する。

研究計画：

- 1) 貫入体最頂部と鉱床の生成に関する研究—今後の鉱床探査は潜頭鉱床が主たる対象となるので 特定岩体の集中的研究を行う
- 2) 酸性火成活動に伴う熱水変質作用の研究—長崎県五島パイロフィライト—ダイアスポア鉱床を主な対象とし 中新世花崗岩の貫入に伴う熱水変質過程 特に Al_2O_3 の挙動を解明する
- 3) スカルン鉱床と酸性火成岩類の研究—スカルン鉱床の鉱物組合せと 鉱床をもたらした花崗岩類の性質との関係をより明確にする
- 4) 鉱石の微細組織からみた鉱床の生成機構の研究—豊羽鉱山の鉱脈生成環境 錳鉱物の起源・生成条件を明らかにする

研究担当部課：鉱床部鉱床研究課が担当し 一部北海道支所が協力する。

21. 鉱物の研究

研究方針：鉱物 特に鉱床構成鉱物の物理的・化学

的諸性質を究明し 地球科学の諸分野に有用な基礎的データを提供することを基本方針とし 当面 鉱物結晶の生成機構の解明 結晶化学的諸データの集積並びに解釈 鉱物の記載的研究 安定同位体による鉱物生成条件の研究などを重点項目とする。

研究計画：

- 1) Cu-Fe-S系鉱物の合成と結晶構造の研究—輝銅鉱 Cu_2S の温度による相転移現象及びジュール鉱 Cu 1.98S の微細組織を電子顕微鏡で観察する また 双晶となる結晶形の計算機による作図プログラムを完成する
- 2) 結晶の外形変化と内部欠陥との関連の研究—合成タングステン モリブデン酸鉱物の合成条件と外形との関係を総括し 一部の結晶については構造解析を行う
- 3) 四国外帯のマンガン鉱物の研究—マンガン鉱床の生成環境を明らかにし 層状マンガン鉱床の成因 解明の一助とする
- 4) 安定同位体による鉱物岩石の成因的研究—鉱床構成鉱物の同位体的性質を天然及び合成物を用いて研究し 生成条件解明に資する また 鉱化作用に関連する各種火成岩・変成岩・堆積岩を同位体化学的に検討して 鉱化物質・媒体などの起源について考察する
- 5) 接触交代鉱床産粘土鉱物の研究—接触交代鉱床生成と粘土生成の関係を明らかにし 粘土鉱物研究を通じて 接触交代鉱床探査に寄与する

研究担当部課：鉱床部鉱物研究課が中心となり 同部鉱床研究課と名古屋出張所が協力する。

22. 石炭地質の研究

研究方針：石炭資源は 近年エネルギー源として見直され 石炭利用法の技術開発が進められている状況から 石炭利用の基礎となる炭質探査法の技術開発について重点的に研究すると同時に 炭田を構成する各種堆積層について層位学的・堆積学的・構造地質学的・応用古生物学的及び応用鉱物学的基礎研究を長期的に実施して 石炭鉱床形成に関する地質学的要因の解明並びに探査・開発方針の確立に寄与する。

研究計画：

- 1) 炭田探査技術の研究—炭田を構成する地層中の炭層・炭質物の反射率及び花粉等の蛍光波長を測定し 国内主要炭田の石炭化度層序を確立し 国内炭の探査・開発の基礎資料とする 研究対象地域としては石狩炭田をとりあげ 石炭及び泥質岩中のピトリニットを採取し 石炭化度の層序的・地域的变化について研究し 埋没深度・地質構造などとの関連性を明らかにする

- 2) 炭田生成機構の研究—沿岸海域の海況・底質及び生息貝類群集の生態学的研究を行って 炭田地域における海成層の堆積古環境解析の基礎資料とする また 相浦・佐世保層群の重鉱物層序研究及び含炭新第三系の植物解析研究を行う

研究担当部課：燃料部石炭課が担当する。

23. 石油地質の研究

研究方針：共水性ガスの生成条件を明らかにしかつその資源としての再評価並びに無公害開発を可能ならしめるための調査・研究を重点的に実施する。また石油・ガス田地帯において 新生界を主対象として 層位学的・堆積学的・並びに応用古生物・鉱物学的調査・研究を長期的に実施するとともに 地質構造形成機構のモデル実験による研究 岩石物性に関する研究 及び堆積環境の解明に必要な現生並びに化石貝類に関する生態学的研究を実施する。これらの研究により 石油・天然ガス鉱床の形成に係わる地質学的要因の解明並びに探鉱・開発方針の確立に寄与する。

研究計画：

- 1) 共水性ガスに関する研究
 - (1) 北陸地方の共水性ガスに関する研究
 - (2) 常磐ガス田の研究
 - (3) 共水性ガス鉱床に関する理論的並びに実験的研究
 - (4) 関東平野中央部低重力地帯の地質と地下資源に関する研究
- 2) 岩石物性に関する研究
 - (1) 堆積岩の圧密と物性進化及び炭酸塩岩の物性に関する研究
- 3) 堆積環境に関する研究
 - (1) 現生貝類の生態学的研究
 - (2) 化石貝類の古生態学的研究
- 4) 石油・ガス田地帯の地質に関する研究
 - (1) 関東平野及び周辺地域の鉱床地質学的研究
 - (2) 東アジアの中生代以降の堆積盆地形成に関する研究
- 5) 資料収集及び研究連絡

研究担当部課：燃料部石油課が中心となり 技術部化学課及び地球化学課 地質部が協力する。

24. 物理探査の研究

研究方針：重力・磁気・電気等の基礎的物理探査データによる地下構造の解明のための研究を行う。また地下資源開発上重要な地域の物理探査を実施し その地

球物理的地下構造を明らかにして地下資源開発面での基礎的資料をうる。一方 地質調査をはじめとする各種の地殻に関する国土の調査・開発に資するため国内で実施されている物理探査調査研究の総括を行う。

研究計画：

- 1) 重力・磁力探査データによる東北地方北部地域の地球物理的地下構造の研究—青森県及び秋田県北部の重力・磁力探査データを系統的にコンパイルし 定性的・定量的解析を行い 将来の地下資源開発のための基礎的資料とする
- 2) 電気探査データによる表層構造の研究—電気探査データを解析し その結果を統計的に処理して 表層構造・地形等との関係を明らかにし 水理地質等の面での基礎的資料とする
- 3) 鳥取県地域の重力・磁気探査—鳥取平野・倉吉平野・大山を中心とした地域の重力探査及び一部地表磁気探査を行い 既存資料もあわせ検討してこの地域の地球物理的地下構造を明らかにする
- 4) 物理探査調査研究—一覧編集—昭和53年に国内で行われた物理探査研究の概要を収集・編集し また簡単な統計的処理を行い考察を加える これらの結果は標題の出版物として公刊する

研究担当部課：物理探査部探査課が中心となり 同部応用地球物理課と鳥取大学が協力する。

25. 物理探査技術の研究

研究方針：各種の物理探査法に関する測定・データ処理・解析法などの基礎的な研究を行い 新技術開発のシードを函養するよう努める。特に微細構造の探査技術に焦点をしばり 関係諸機関とも密接な連携を保ちつつ 弾性波・電磁気等の各手法による先導的研究を推進。

研究計画：

- 1) 浅層反射信号の検出手法の研究—浅部からの微弱な反射信号の検出技術 特にS波の受信面に主眼を置いて実用上の問題点を検討する 野外実験は橿挽断層周辺地域で実施し 水平軸受振器の群設置法によるS/N比改善技術の研究並びに同地域の弾性波特性の総括を行う
- 2) 活構造地域における電氣的探査手法の研究—種々の異った断層タイプへの手法の開発と適応性の検討に着手する すなわち これまで研究対象としてきた山崎断層及び橿挽断層とは別種の形式に属し 現在もっとも各方面から注目されている伊豆北部の神繩断層または丹那断層にモデル実験地域を設定し 直流電界並びに変動電磁界の両手法による探査システムの研究を行う

研究担当部課：物理探査部技術開発課が担当する。

26. 応用地球物理の研究

研究方針：地球物理学的手法を用いる地殻構造の研究
岩石の物理的性質を通じ地殻構造及び物理探査の解析・解釈の研究を行う。昭和54年度は花崗岩質岩石の放射性・磁性を中心とした岩石物性の研究 伊豆半島北部一駿河湾沿岸地域の重力分布測定による地下構造の研究及び地球物理的資料による関東平野の地下構造の研究を行う。

研究計画：

- 1) 花崗岩の放射性と磁性に関する研究—新潟・山形県下に露出する白亜期後期（一古第三紀）花崗岩類の帯磁率の実態を明らかにし これまで研究してきた阿武隈山のそれと比較検討して 東北日本における花崗岩類の広域的变化を究明する
- 2) 伊豆半島北部一駿河湾沿岸地域の重力分布の研究—伊豆半島北部一駿河湾周辺地域の地殻構造解明の資料を得るため 愛鷹山南麓・沼津・三島周辺地域の重力測定を実施すると共に 全地域にわたる重力分布のまとめを行う
- 3) 地球物理的資料による関東平野の地下構造の研究—関東平野の重力図のコンパイル及び地震探査・坑井・空中磁気図等のデータ収集を行い これら諸データの総合解析を行う

研究担当部課：物理探査部応用地球物理課が中心となり 同部探査課及び技術開発課 地殻熱部地殻熱資源課 環境地質部地震物性課が協力する。

27. 地球化学の研究

研究方針：地殻・マントルにおける元素及び化合物の分布と存在形態並びに移動に関する基礎的な研究を実施し 地質諸現象の解明に役立てる。同位体比測定や地質年代の決定により地質学上の諸問題の解決を行う。

研究計画：

- 1) 火成岩の地球化学—主として固体用質量分析計を用いて Rb・Sr・希土類元素などの微量元素の定量及び Sr・Pb 同位体比の測定により 火成岩の岩石学的及び地球化学的研究を進める アラビア盾状地の火山岩類の地球化学的研究を行う
- 2) 堆積地球化学—堆積岩：第三系泥質岩・沖積堆積物などの化学成分の存在量と存在形態を明らかにし 堆積環境や成因などの問題を検討する 有機地球化学：堆積岩及び堆積物中の可溶性・不可溶性有機物 炭化水素などの存在量とC同位体比を測定することにより 岩石圏の有機物質の生成・変化の過程を追求し 炭化水素鉱床の生成機構

を明らかにする 水地球化学：地下水の水質や酸素・水素同位体比を測定して 地下における水の基本的な性質や挙動をさぐる

- 3) 地質年代の研究—岩石の年代を測定して日本列島の地史を明らかにする K-Ar 法による依頼測定を行う
- 4) 地球化学的データ編集—微量元素の存在量及び同位体組成に関するデータを収集する
- 5) ヘリウム同位体比に関する地球化学的研究—地下水・温泉等に伴うガスのヘリウム同位体比 ($^3\text{He}/^4\text{He}$) を測定し その変化と地殻活構造との関連を究明する

研究担当部課：技術部地球化学課が中心となり 同部化学課及び試験課 燃料部石油課 地質部地質第二課及び地質第三課 環境地質部地震化学課が協力する。

28. 応用地球化学の研究

研究方針：環境評価・資源の予測と評価等に関する応用地球化学的研究 地質試料の化学分析法の研究並びに地質試料の分析業務を推進する。本年度から地質化学的標準試料の研究が地球化学の研究グループから当グループへ移行する。

研究計画：

- 1) 地質及び地下資源の応用地球化学的研究—地球化学図作成のための基礎的な研究 深成岩の一次分散の研究 堆積岩中の有機物の研究 炭酸塩岩石の化学成分に関する研究 深海底堆積物の主・微量成分の研究 地下水の化学成分に関する研究を行う
- 2) 地質試料の分析法の研究—機器分析法の研究として 蛍光X線・示差熱—熱重量—ガスクロマトグラフ等による分析法の研究 標準分析法の研究として 深海底堆積物の分析法・JIS 関係等規格分析法・当所における化学分析法の編集等の研究を行う
- 3) 地球化学的標準試料の研究—各種岩石標準試料の作成法と化学成分の研究を行う
- 4) 化学分析業務—所内各部課の研究業務に係わる岩石・鉱石・ガス・水等の分析業務を行う

研究担当部課：技術部化学課が中心となり 同部地球化学課 環境地質部地震化学課 地殻熱部地殻熱物性課 海洋地質部海洋鉱物資源課 鉱床部鉱床研究課 燃料部石油課が協力する。

29. 技術の研究

<地形・測量技術>

研究方針：地質鉱床調査研究の各分野に必要な地形に関する情報を提供するため 地形・測量技術の向上に

つとめる。54年度は前年度に引き続き地震地質・海洋地質・防災等の各研究グループの研究と密接な連携のもとにこれらに関連する技術研究の推進に主眼をおきその充実を図る。更に所内外の地形・測量に関する技術的な相談業務に応ずるため関連機関との連携を保ち資料の収集・解析などを併せて行う。

研究計画：

- 1) 地盤変動地帯の測量的研究
 - (1) 地震断層周辺の地盤変動の測定に関する研究
 - (2) 残壁崩壊の予知に関する表層変動の測定技術の研究
- 2) 写真判読による地形形態並びに地形計測に関する研究
火山山麓における泥流丘の分布に関する資料収集
- 3) 測量技術 測量新技術の導入・開発に関する研究

研究担当部課：技術部地形課が担当し一部について環境地質部環境地質課が協力する。

<試錐技術>

研究方針：地質調査研究及び地下資源探査に不可欠な試錐に関する技術の研究を主務とし当所の地質調査研究業務に協力するものである。更に試錐を実施する公共機関に対する技術的相談に応ずるためあるいは試錐研究機関（学会・協会など）に対して主導的な役割を果たすため試錐技術に関する資料の集積・整理・保管の業務も併せて実施する。

研究計画：

- 1) オーガーロッドによる簡易乾式試錐法の研究
- 2) ボーリング孔内観察調査技術の研究
- 3) 試錐柱状図の整理・編集

研究担当部課：技術部試錐課が中心となり 同部特殊技術課 環境地質部地震化学課 燃料部石炭課が協力。

<特殊技術>

研究方針：地質調査研究用機械・器具類の試作 改造・補修・調整等を通じ各研究グループに協力しより良い研究成果が挙るようにする。岩石鉱物の薄片・研磨片の作成については研究者の研究目的に適した作成方法で処理する。

研究計画：

- 1) S波による弾性波法のパネ式水平動起振装置の試作

- 2) 大口径採泥器の試作
- 3) 乾式ボーリングによるガス抜き装置オーガロットの試作
- 4) 地質・鉱物研究のための薄片及び研磨片の作成
- 5) 複数試料の同時研磨と比較用薄片の作成法についての研究

研究担当部課：技術部特殊技術課が担当する。

30. 海外地質の研究

研究方針：発展途上国に対する技術協力が強く要請されている現状にかんがみ 専門家派遣・地域協力機構 (CCOP RMRDC CCOP/SOPAC)への協力などの計画的な実施を通じ 発展途上国の地質調査機関の発展と地学研究者の向上に寄与するよう努める。先進諸国との交流あるいは国際的研究組織との密接な連絡を促進し 国際性の豊かな研究者の育成に貢献する。

環太平洋マップ・プロジェクトの下に実施されている北西太平洋地域の地質・地下資源に関する資料の編集とその解釈を IGC CCOP/IDOE 研究グループと密接な連絡を保ちつつ推進する。

研究計画：

- 1) 海外業務
 - (1) 専門家派遣に関する計画の策定 専門家との連絡 派遣に伴う業務
 - (2) 国際会議：CCOP CCOP/SOPAC UJNR 等に対する協力
 - (3) 関係部課に対する協力 受入れに伴う業務
 - (4) 在外研究・調査団等の折衝・連絡及び渡航に関する業務
 - (5) CCOP-IDOE 計画：国立研究機関との相互連絡 IDOE トランセクト地域の地質構造の研究
 - (6) エスキャップ堆積盆地対比委員会：堆積盆地の層序対比化石層序対比等の研究
 - (7) CCOP テクニカルプレティンの編集 海外地質文献・地図等の収集整理 世界地質図委員会に対する協力 海外地質期報の印刷
- 2) 環太平洋マップ・プロジェクト一国内委員会 国際パネル会議の運営 関係国に対する資料・ベースマップ等の収集・配布 地質図・地質構造図・資源図等北西地域に関する各種地図の編集

研究担当部課：海外地質調査協力室が中心となり各研究部課が協力する。

**31. 地方地質の研究
(北海道支所)**

研究方針：北海道における地質・地下資源の総合的調査研究 先行的基礎研究を進めるとともに技術の開発指導を行う。また本所業務への協力あるいは海外技術

協力を努力するとともに 研究環境の充実 その維持整備に努め 地質標本・資料の収集整備を続ける。

研究計画：

- 1) 地方地質の研究及び関連研究
 - (1) 西南北海道地域の深成岩類の研究(松前地域)
 - (2) 定山溪南部地域の鉱化作用からみた地質構造の研究
 - (3) 若鍋層の岩相変化の研究
 - (4) 歌登デスモスチルス包含層の堆積環境の研究
 - (5) 十勝川上流地域新生界の古地磁気的研究
 - (6) 炭田地帯の石炭ガスの賦存状態の研究
 - (7) 平野地質の研究(妹背牛)
 - (8) 石狩丘陵南西部(石狩図幅)の海成段丘 旧汀線高度の追跡
 - (9) 北海道開発庁委託5万分の1地質図幅「西舎」
 - (10) 本所研究業務の分担(地質図幅・地質編さん・鉱床探査・鉱物資源の研究 公害防止等試験研究など)
- 2) 研究維持整備—分析試験業務 岩石鉱物薄片研磨業務 資料整備 標本室整備及びX線回折装置外補修を行う。

研究担当部課：北海道支所が担当する。

(東北出張所)

研究方針：東北地方における地質・地下資源に関する基礎的調査研究及び資・試料の収集・整備を行い 地域開発に必要な基礎資料を提供する。特に地熱エネルギー資源(地熱・温泉)を対象とする研究に重点をおきこれらに関連し最も重要かつ必要と考えられる 新第三紀広域変質作用に関する研究及び東北地方の火山岩に関する 岩石学的・地球化学的研究等の基礎研究を引き続き実施する。一方 東北地方の地質・鉱床・応用地質学上の資料センターとしての役割を果たすため 関係資料及び岩石・試錐岩芯等の収集・整理保管を行い もって地域社会の要望に応える。

研究計画：

- 1) 地域地質の研究
 - (1) 青森県下の温泉泉質並びに地質構造に関する研究
 - (2) 郡山市磐梯熱海温泉地域の新第三系の続成変質について
 - (3) 中新世安山岩類の変質作用における化学組成の挙動について
- 2) 資料センター
 - (1) 東北地方の地質・鉱床学及び応用地質学的資料 岩石標本 試錐岩芯等の収集及び岩石分析等の資料整備を行う
 - (2) 大学・産産局・地方庁・鉱山業界等に対する指導・業務相談及び資料閲覧等に応える
 - (3) 地学の振興に寄与する

研究担当部課：東北出張所が担当する。

(名古屋出張所)

研究方針：東海北陸地方の地質・地下資源に関する基礎的研究及び資料の収集・整備を行う。特に管内窯業原料について 未開発資源の研究を進めるとともに今後の資源対策についての資料収集・総括を行う。

研究計画：

- 1) 地方地質の研究
 - (1) 岐阜県高山周辺の未利用粘土の研究
 - (2) 三重ドロマイト鉱床の研究
 - (3) 愛知県美浜町の頁岩粘土の研究
 - (4) 三重県下の粘土資源の研究
- 2) 本所研究業務の分担(鉱物・鉱物資源・地質図幅・地質編さんの研究)
- 3) 地質・地下資源に関する試・資料の収集 整備及び技術指導・相談

研究担当部課：名古屋出張所が担当し 一部については名古屋通産局鉱山部が協力する。

(大阪出張所)

研究方針：近畿地方の地質及び地質構造など基礎的な研究を主題とし 同地方周辺部との関連調査研究を実施するとともに 各種試・資料の収集 整備を行い 地域社会の要望に応える。

研究計画：

- 1) 地方地質の研究
 - (1) 湖東地域の古生層の研究
 - (2) 瀬戸内中新統(近畿地方東部)の研究
 - (3) 越前瓦の瓦粘土の研究
 - (4) 大阪層群の粘土鉱物の研究
- 2) 本所研究業務の分担(地質図幅・地質編さんの研究)
- 3) 地質・地下資源に関する試・資料の収集 整備及び技術指導・相談

研究担当部課：大阪出張所が担当する。

(中国出張所)

研究方針：中国地方の地質的特色を活かした研究を行うとともに 地域内の地質に関する資・試料の収集・整備に努め 地域福祉と開発とに必要な地質の基礎資料を各界に提供することを目的として 研究業務 技術指導・相談業務 資・試料の収集 整備を3本の柱として

調和のとれた業務を推進する。

研究計画：

- 1) 地方地質の研究
広島県北西部の中生代火成活動の研究
- 2) 本所研究業務の分担（地質図幅・鉱床探査の研究）
- 3) 地質・地下資源に関する試・資料の収集 整備及び技術指導・相談

研究担当部課：中国出張所が担当する。

（四国出張所）

研究方針：四国地方の地質的特色を活かした研究を行うとともに 地域内の地質に関する資・試料の収集・整備に努め 地域開発に必要な基礎資料を各界に提供する。

研究計画：

- 1) 地域地質の研究
 - (1) 香川県下の岩脈類の岩石学的研究
 - (2) 古期岩層の可燃性天然ガスの発生機構並びに採ガス技術の研究
- 2) 本所研究業務の分担（火山地域の地質及び地下構造に関する研究）
- 3) 地質・地下資源に関する試・資料の収集 整備及び技術指導・相談

研究担当部課：四国出張所が担当し 一部については四国通産局鉱山部が協力する。

（九州出張所）

研究方針：九州地方の地質的特性に応じた調査研究を行うとともに 管内の地質及び地下資源に関する資料の収集・整備に努め 地方地質の基礎資料を提供する。

研究計画：

- 1) 地域地質の研究
 - (1) 南部九州四万十帯—高隈山帯—の含銅硫化鉄鉱床の研究
 - (2) 天草炭田の総括研究
 - (3) 佐賀県北西部の佐世保層群の研究
 - (4) 九州の珪砂資源の研究
- 2) 地質・地下資源に関する試・資料の収集 整備及び技術指導・相談

研究担当部課：九州出張所が担当する。

32. 資料・出版業務

業務方針：わが国唯一の地学に関する資料センターとして 国内外の資料収集を強化し 収集資料の有効利用を図るため資料整理を図り 情報部門を充実させて内外の期待にこたえる。出版に関しては 研究者の協力を得て 年度計画にしたがい研究成果を迅速に公刊すると共に 出版諸経費節減のため新しい技術・知識の吸収に努める。

業務計画：

- 1) 資料情報の調査・収集—国内外の地学関係文献の積極的網羅収集及び情報の把握に努める
- 2) 受入資料の整理・明確化—所蔵目録作成準備 未整理資料の整理及び筑波における地図室の整備を行う
- 3) 文献情報活動—地学文献速報の採録・編集 地質文献目録の採録 地質図索引図の編集及び文献紹介を昨年引き続き積極的に推進する
- 4) 文献検索・資料業務の機械化—資料情報の効率的活用のため検討を進める
- 5) 筑波移転—資料の移転は 資料部門ワーキンググループの中間報告にそって実施する
- 6) 出版物—各種地質図類・月報・報告等を出版する

業務担当部課：資料室が担当する。

33. 地質相談業務

業務方針：地質及び地下資源に関する指導・相談及びこれに関する各資料の収集に関することを行い 指導相談業務の内容を所内外に連絡し 社会の要請と地質調査所業務との効果的な連携を図る。また 各都道府県下の地質及び地下資源に関する社会産業情報を収集・把握する。

業務計画：

- 1) 依頼に応ずる相談業務と密接な関係にある内外の多岐にわたる産業情報の収集に努め これらを取りまとめて報告する
- 2) 各都道府県下の地質及び地下資源に関する情報を把握するため資料収集を行う

業務担当部課：地質相談所が担当する。